

サッカーにおける走行距離に関する研究

ー走行距離が与える試合影響についてー

中道 勇気 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 渋谷 俊浩

キーワード：サッカー 走行距離 ポジション

1. 緒言

サッカーのゲームでは、チームの選手が協力し合い、90分という競技時間の間、得点しようとし、また相手チームのプレーを妨害しボールを奪おうとして動き回る。そして、個々の技術、判断力、体力といった要素のもとに、ボールを中心とした攻防と選手の動きによって構成されるゲームである。選手は、ボールに対して直接技術を発揮するとともに、フィールド内を多様な方向へ移動することとなる。現在、90分間の試合の中で選手一人が移動する距離は、8000m～12000m前後であることが報告されている。また、ポジションの特性として、ミッドフィールダー (MF) が他のポジションより走行距離が高いことがわかっている。

そこで、本研究では2010FIFA ワールドカップ南アフリカ大会の試合ごとの走行距離について、チーム・ポジション別の走行距離を比較し、走行距離が試合にどのような影響を与えるのか (チームの勝敗など) を明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

本研究の調査対象は、2010FIFA ワールドカップ南アフリカ大会決勝トーナメントに進んだ16チームの、FIFA.comのデータをもとに比較・研究した。各チームの一試合の走行距離、攻撃時の走行距離、守備時の走行距離を、チーム・ポジション別に比較検討した。

3. 結果と考察

PK戦を含まない14試合中12試合において、特にスペイン代表やオランダ代表のように、「DFの攻撃時の走行距離が長い」チームが試合に勝利する確率が高いことがわかった。また、全体では、85%の確率で「DFの攻撃時の走行距離が長

い」チームが勝っていた。(図1参照)

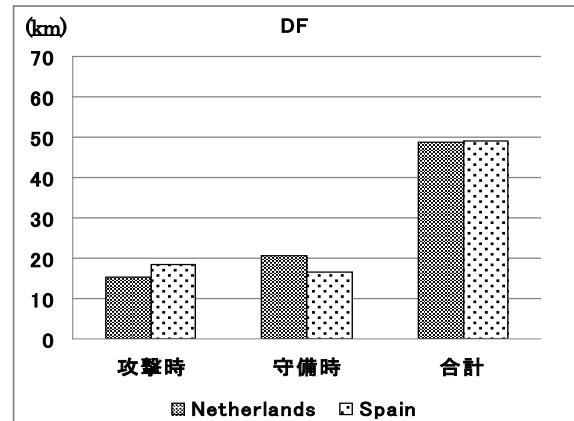


図1：スペイン VS オランダ DFの走行距離

今大会の優勝国であるスペイン代表は、全ての試合でDFの攻撃時の走行距離が相手チームを上回っていた。そして、準優勝国であるオランダ代表は、決勝でスペイン代表に負けた試合以外は、DFの攻撃時の走行距離は相手チームよりも上回っていた。これらのことから、攻撃時は多くの選手がプレーに絡み、相手ゴールを目指すことが勝利に近づくのではないかと考えられる。つまり、サイドバック、センターバックの選手が積極的に攻撃に絡むことが、今後のサッカーの戦術に大きく影響していくことが推察される。

4. まとめ

- ・DF・MF・FWのポジション別では、一試合の走行距離はMFが最も長かった。
- ・DFの攻撃時の走行距離が長いチームが勝利する確率が高いことがわかった。

参考文献

大橋二郎 (1991) 世界一流選手のゲーム中の移動距離. 東京大学教養学部体育学紀要. 25. 1~6